

災害時要配慮者に対応した災害食の研究 ～食物アレルギーからの第一歩～

愛媛県立西条高等学校

飯尾光

伊藤優花

大濱愛花

三宅愛

【要旨】

災害時要配慮者に対応した公的備蓄や市販品等は少なく限定的であるため、レシピを考案して冊子にまとめた。冊子配布後のアンケート調査から、栄養に配慮した備蓄意識の高まりがみられた。

【感想】

様々な場合・場所を想定して、食材の選定や調理方法、栄養、衛生面等について話し合い、災害食の試作を繰り返しました。苦労しましたが、研究が深まる感覚も味わえました。

まさか、賞をいただけるとは思っていませんでしたので、驚きと喜びで一杯です！



審査員からのコメント

本研究は、災害時における食事について、とりわけ災害時要配慮者の中でも食物アレルギーという観点から課題を探求した作品である。過去の大規模災害における被災者の栄養状態について調査し、それを地元の備蓄状況と比較することで災害時の問題点を把握し、この問題を解決するための災害食を研究し、災害時レシピブックの開発、自校の学生に配布した後の災害食についての意識の変化までを調査した点を高く評価した。表現について、研究の組み立てにやや難解な部分があった。特に、食物アレルギーについてタイトルに記されているが研究目的・意義、仮設、研究手法にもその点を強調すれば、より高く評価されたと考える。今後、この研究がますます発展することを期待する。

